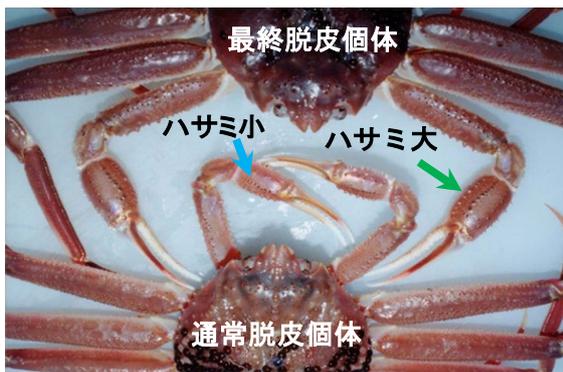


雄ズワイガニの水ガニ測定調査

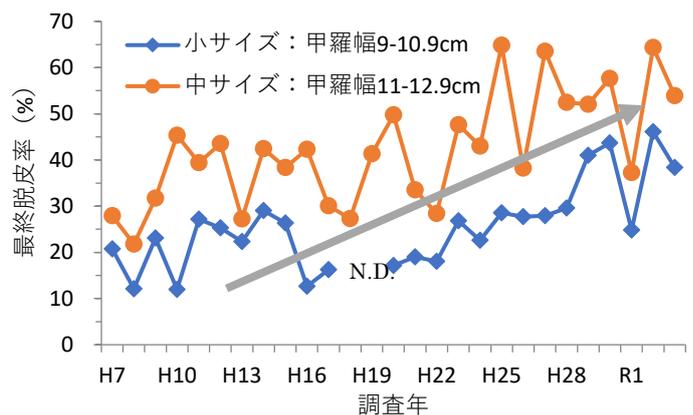
雄ズワイガニは毎年9～10月頃に脱皮を行い、その後数ヵ月は甲殻が柔らかい水ガニ※となります。雄の脱皮には、生涯最後となる最終脱皮とその後も脱皮を行う通常脱皮があります。前者はハサミが大きく、後者は小さいことから甲羅とハサミの大きさを測定することで識別できます。最終脱皮後の雄は翌年には甲殻が硬くなり、「間人^{たいざ}ガニ」「舞鶴かに」などのブランド蟹となります。

最終脱皮を迎える大きさには個体差があることから、当センターでは毎年1～3月に水ガニの甲羅とハサミの測定を行っています。近年は小さいサイズで最終脱皮を迎えることが多くなっており、今年度も同様の結果でした。このことはブランド蟹の小型化につながりかねないことから、その原因解明と今後の動向把握等に努めます。

※水ガニ：交尾能力がなく、市場価値が低いため、京都府では平成20年度から漁業者の自主規制により水揚禁止となった。



最終脱皮個体（上）と通常脱皮個体（下）



水ガニの最終脱皮率